

南アフリカ為替週報

2021年10月7日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(9月30日～10月6日)

USD/ZAR: 14.8425～15.2500
ZAR/JPY: 7.34～7.48 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、上昇後、反落。振り返って、対ドルで、概ね横ばいになった。ランド堅調先行は、30日に発表された南ア8月貿易収支の上振れというランド高要因と、同日から1日に掛けて米長期金利が調整的な下振れを見せたというドル安要因が重なった結果と考えられた。週明け4日以降、ランドは一転軟調に。そこになんらかのランド安要因があったかと言うと、南ア国債が急落していた(利回りは急上昇)ことが影響したのはほぼ確かだろうが、南ア国債が売り込まれた理由については、これと言ったものは見つけられなかった(注)。5日、半期(6ヵ月)に一度の金融政策検証で、南ア準備銀の四半期予想モデルが年末までの25b.p.利上げと向こう8四半期に亘って、四半期毎に25b.p.の追加利上げが実施される可能性を示した。現在までの市場の織り込みをはるかに凌駕する大幅利上げ予想ということになるが、周知の通り、同予想モデルは、実際の南ア準備銀金融政策とはほとんど連動しない。それよりも、「(足下物価動向などが)金融政策の正常化の必要を示唆している」といった声明の文言の方が、目先の南ア準備銀金融政策の動向を占う上では重要と思われた。また、ナイドー副総裁が、「健全な金融政策は、GDPに大きく影響はしない(≒利上げは経済成長率を押し下げない)」と述べたのも、利上げの準備が整いつつある可能性を示唆した。もっとも、並行してランド軟調が続いた事実は、通貨市場が、既に南ア準備銀利上げを織り込んでしまっている可能性か、逆に、早期利上げをほとんど警戒していない可能性を示唆したように思われた(敢えて選ぶのならば、実態は前者に近いものと推量)。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/30	6:00	民間部門信用(前年比)	8月	+1.12%	+1.00%	+0.70%r
	12:00	貿易収支(ZAR)	8月	+42.4bn	+35.0bn	+37.0bn
	12:00	財政収支(ZAR)	8月	-39.3bn	-40.5bn	-133.2bn
10/1	11:24	自動車販売台数(前年比)	9月	+15.8%	+12.0%	+24.6%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(10月7日～10月13日)

USD/ZAR: 14.950～15.300
ZAR/JPY: 7.30～7.45

向こう1週間の南ア・ランド相場は、8日の米雇用統計に注目。南ア8月貿易収支の高止まりには、正直、困惑を覚えた。昨年後半以降の貿易/経常収支の改善、更には(法人税収増を追い風とした)足下財政収支の改善の背景にあったのは、南ア主要輸出品である鉱物資源価格(金、プラチナなど貴金属、銅、ニッケルなど産業金属、他)の上昇(回復)と、ランド安という、南ア交易条件の改善が寄与してきたものと考えられていた。しかし、足下、鉱物資源価格を見ても(アルミなど一部を除く)、中期的なランド水準を見ても、交易条件の優位は概ね失われてしまったと考えて差し支えないはず。にもかかわらず、現在まで貿易収支が高止まりしており、それも、(輸入減による部分よりも)輸出の強い伸びに支えられている事実には、強い意外感を抱かずにはいられない。南ア経済にとっては喜ばしいことに違いないものの、やはり、いつまでも続くとは思えない/いつ反転してもおかしくない現象と言えるのではないかと。米雇用統計に注目するのは、4日以降の南ア長期金利急上昇との連動とはなかったものの、やはり、米連銀金融政策動向(テーパリング開始時機)や米長期金利が南ア長期金利、ランドに及ぼす影響は重要と考えるから。強め(弱め)の数字はテーパリング前倒し(先送り)や世界的な長期金利上昇(下落)への連想から、素直にランド売り(買い)要因と読まれるのではないかと。

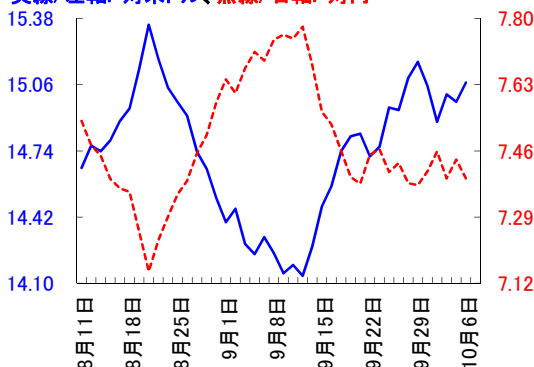
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/7	6:00	総外貨準備高(USD)	9月		58.07bn	58.41bn
10/11	9:30	企業景況感指数	9月			
10/12	9:30	鉱業生産(前年比)	8月			+10.3%
	11:00	製造業生産(前年比)	8月			-4.1%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

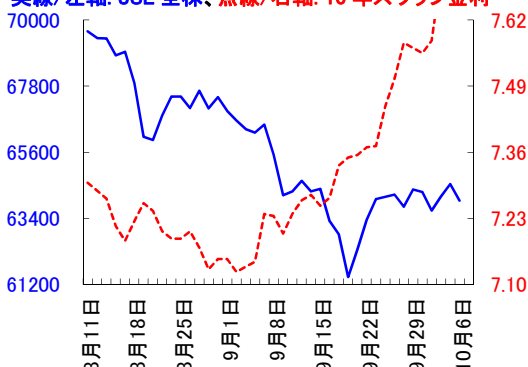
為替相場の推移 (資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	10月6日	7.685%
株価指数(JSE 全株)	10月6日	63987.02
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	8月	+4.9%
小売売上高(前年比)	7月	-0.8%
製造業生産(前年比)	7月	-4.1%
鉱業生産(前年比)	7月	+10.3%
貿易収支(ZAR)	8月	+42.4bn
金価格(ロンドン 17:00)	10月6日	1761.83

(注) 並行して、米長期金利はじり高基調(米国債価格は軟調)ながらも小動きで、米長期金利に連れた値動きというわけではなかったはず

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。